日本ウイグル協会会報　2014年10月5日 第18号

蒼空

東トルキスタンのヤルカンドでおきた中国当局による虐殺について
イリハム・トフテイ氏は無罪だ
人道援助を求める叫びがヤルカンドから届く！
ウイグル人とウイグル文化
他

ウイグル・ヤルカンド虐殺 記者会見

中国報道「ウイグル人のテロ」への疑義 逆に現地で中国がウイグル人に対する虐殺、国家テロを

８月８日、日本ウイグル協会はラジオ・フリー・アジアの情報、並びに世界ウイグル会議にウイグル現地から届いた報告などをもとに、東京の会議室にて記者会見を行い、ウイグルのヤルカンドなどで起きている中国による虐殺について訴えました。

イリハム会長は、この時点には英文にて現地から世界ウイグル会議に向けて現況を訴えるために届いた手紙を記者団に配布（翻訳は本号に収録）。この７月 30 日、中国・国営新華社通信は、新疆ウイグル自治区カシュガル地区ヤルカンド県で、28 日朝、刃物やおのを持った武装集団が地元政府庁舎や派出所を襲撃し、市民に無差別に切りつけ、漢族やウイグル族ら数十人が死傷したと伝えた、そして市民の死者３７人のうち漢族が３５人、ウイグル族が２人。１３人が負傷したと述べているけれども、実態はそれとは全く異なると述べました。

イリハム氏は、ラジオ・フリー・アジアは、７月 18 日、ヤルカンド地区にて、ラマダン期間中に、当局の警察が各家庭に何の許可もなく入り込み、民族の伝統衣装であるスカーフをつけているかどうかをチェックして回ったりしている、特に資料にあるように、ある一家が、その警察の不当な取締りに抗議したところ、一家全員が 72 歳のお爺さんから小さな子供まで一斉射撃で殺されるという事態が起き、これに対し民衆が抗議に立ち上がったところ、多くの人々が武装警察に殺されるという虐殺が起きていると語りました。

そして、今ウイグルでは、自由な服装すら許されず、強い信仰心を表した服や、伝統衣装と思われるものを着ることも禁止されている、本来服装などは完全に自由であるのが当たり前なのにそれも許されなくなっていると述べました。そして、８月６日には公開裁判が行われ、20 歳にもならない若いウイグル青年たちに対し、体を鍛えるための道具を持っていた、パソコンデータの中にコーランの教えを説く映像を持っていただけで、７年から３年の実刑判決が下されたと述べました。

そして、今ヤルカンドをはじめ、ウイグル地区では外国メデイアによる自由な取材が許されない、警察だけではなく軍用トラックすら出動して弾圧と虐殺にあたっており、私達の推測では数千人規模の虐殺が行われている。これが習金平の「対テロ戦争」の実態であり、ウイグル人を迫害し逮捕すれば中国共産党員は出世できるような露骨な民族対立が煽られているとイリハム氏は批判しました。そして、日本政府は虐殺を止めさせるために、中国政府に対しても、また国連に対しても呼びかけて欲しい、そして虐殺の現地ヤルカンドに国際的な調査団が入ることを国連や世界の人権を守る人々は中国政府に要求して欲しい、その為に報道関係の方々や、日本国民は日本政府に訴えてほしいと語りました。（編集部）

朝日新聞による報道

7月の新疆殺害
「2千～3千人か」
日本ウイグル協会長

中国新疆ウイグル自治区ヤルカンド県で7月下旬に起きた襲撃事件にからみ、日本ウイグル協会のイリハム・マハムティ会長は8日、東京都内で記者会見し、中国の治安当局が事件直後、無差別に発砲するなどして「2千～3千人のウイグル族を殺害した疑いがある」と指摘した。米政府系のラジオ・フリー・アジアの報道や現地住民からの情報などが根拠だという。

自治区政府系ニュースサイト・天山網は事件で容疑者59人を射殺したと伝えているが、同会長は「虐殺が行われた疑いがあり、外国メディアや第三者による調査が必要だ」と述べた。

http://www.asahi.com/articles/ASG884SR6G88UHBI011.html

東トルキスタンのヤルカンドでおきた中国当局による虐殺について

七月三〇日、中国・国営新華社通信は、新疆ウイグル自治区カシュガル地区ヤルカンド県で、二八日朝、刃物やおのを持った武装集団が地元政府庁舎や派出所を襲撃し、市民に無差別に切りつけ、漢族やウイグル族ら数十人が死傷したと伝えた。新華社は「組織的で綿密に計画された重大なテロ」と報じている。

中国メディアによると、二八日早朝に現地で警察官が爆発物を持った武装集団を発見、容疑者らは逃走後に再び政府庁舎などを襲ったという。今回の襲撃事件は新疆ウイグル自治区西部ヤルカンド郊外にある町Elixhu周辺で二八日午前、刃物やおのを持った暴徒が政府庁舎、警察署、通行する車を襲い、数十人が殺害されたという。

国営新華社通信は、この襲撃が「入念に計画され、周到に準備された組織的で、悪質かつ暴力的なテロ攻撃」だとし、多数の漢族とウイグル族の市民が殺害されたと報じた。そして「警察は法にのっとって速やかに対応し、数十人の暴徒を射殺した」とした。自治区当局が二日に開催した対策会議によると、市民の死者三七人のうち漢族が三五人、ウイグル族が二人。一三人が負傷した。「暴徒」側の死者は五九人と発表した。

中国政府が現場周辺の立ち入りを制限し、海外メディアも強制的に排除するなどして、また、インターネットも遮断され、ヤルカンド県に出入りすることもできない状況で、中国当局の一方的な情報しか流れず確実な情報の把握は難しいが、米政府系の自由アジア放送（ＲＦＡ）の現地住民へ電話取材とネット上の投稿情報によれば、事件の真実と中国当局の報道には大きな違いがあることがわかりました。

そして、海外のウイグル人組織は、「テロリストによる攻撃」とする中国政府の見方に大きな疑義を抱いており、逆に現地でウイグル人にたいして中国により虐殺、国家テロを行ったと判断しています。

今回の事件の主な原因は、七月三一日のＲＦＡの取材によると、ラマダン期間中に当局者が各家庭を回り、女性が禁止されているスカーフを着用していないかをチェックしていたことに反発が強まっていたと見ています。

特に七月一八日ヤルカンド県のＢＥＳＨ　ＥＲＩＱ町で起きたスカーフの検査をめぐり、警察官が七歳の少年と七二歳の老人を含む家族五人を射殺する事件が起き、これが今回の事件の主な原因とみられる。

ＲＦＡの取材を受けた現地女性の話で、この事件が現地の皆の間で伝え広まったことから、ヤルカンド郊外にある町Elixhu、Hangdiの一部の人たちが集まって抗議を行ったが、多くが警察官により殺害されたという。現地のウイグル族の女性は電話取材に「武装警察ばかりで、取り締まりを恐れて街には誰も出ていない。道路も検問があり行き来できない。恐怖の世界だ」と伝えた。

ＲＦＡによると、七月三一日に、Elixhuの第一四、一五、一六村で三〇〇〇人以上の人が武装警察に殺されたと手紙が届いたという。また八月一日に世界ウイグル会議にも同じ内容の手紙が届き（※）、この村で大虐殺が起きたことを述べ、国際社会に助けを求めた。

以上のことを含め、八月一日、ＲＦＡの記者が現地に電話取材を行い、虐殺の真実を明らかにした。

電話取材に出た現地住民男性の話によると、二八日から今日までの五日間、警察の車と救急車がずっと走っているという。この男性が事件が起きた第三村の人から聞いた話として、二八日二九日にこの村で家から外に出た人たちに武装警察が無差別に発砲し、二〇〇〇人以上の人が死んでいる。事件とまったく関係もない多くの人たちが、自宅付近、畑で農事をやっている途中、手元に農業道具持っているというだけの理由で、軍隊のスナイパー（狙撃手）により長距離で射殺されたという。町のあらゆるところで死体が見え、家から外に出られないと伝えた。

またＲＦＡは中国語放送でも、現地在住漢族の話として、死者が千人に達したと報じた。また、現地情勢に詳しい漢族女性はＲＦＡに対し、「巻き添えになった人を含めて（死者は）一〇〇〇人に上る」と述べた。

中国当局は八月二日土曜日の報道で、七月二八日ヤルカンドで起きた衝突で市民が三七人死亡、所謂「暴徒」が五九人死亡、二一五人が拘束されたと発表した。中国・国営新華社通信は七月二九日の報道で、二八日ヤルカンドの Elixhu、Hangdi で起きた衝突で数十人死傷、警察の車三一台破壊、その中六台が燃やされたという。

このように中国当局は真実を国際社会に報道しない。虐殺のことを隠そうとしている。Twitter、Facebook などネット情報サイトでも、七月二八日、二九日の衝突で死亡した人が中国当局の発表を超え死者が二〇〇〇人から三〇〇〇人の間と伝えられている。

現場付近には、ヤルカンドへ向かう中国人民解放軍の車両、数百台が走行することなども確認され、当局が機械化部隊を現地に派遣、大規模な虐殺行ったという見方もある。またＲＦＡの現地電話取材などにより、虐殺の可能性が高まるとともに、中国当局の発表にたくさんの疑問が残されている。

【日本語訳】人道援助を求める叫びがヤルカンドから届く！

※世界ウイグル会議とラジオフリーアジアに届いたヤルカンドの目撃者からの手紙の日本語訳です。手紙の英訳は世界ウイグル会議の記事をご覧ください。
A CRY FOR HUMANITARIAN HELP FROM YARKAND!!!
http://www.uyghurcongress.org/en/?p=23088%20A%20CRY%20FOR%20HUMANITARIAN%20HELP%20FROM%20YARKAND!!!

二〇一四年八月二日付　匿名の目撃者より
注：原文の手紙はウイグル語で書かれており、つい最近東トルキスタンのヤルカンド県で起きた、中国治安部隊によるウイグル人への残忍な弾圧を目撃した証人からのものと思われる。

アッサラーム・アレイクム（こんにちは）【アラビア語で元の意味は「神の平和があなたの上に」】愛する家族たち（亡命ウイグル人たちへ）！

私たちの祖国は今、過激な暴力に支配されている。どうか世界に向けて私たちのメッセージを伝えて欲しい。私たちの現況はあまりにひどいものだ、希望もない。七月二八日の夕方、イリシュクー郷一五-一六-一七地区にて、ウイグル人の女性たちが「ラマダンの終了と火曜日に支援が来るのを」祝って夜を過ごそうと集まっていた。女性たちは三〇名と一五名のグループ二つに分かれていた。男性は夜の祈りのためにその場には一人もいなかった。女性たちが集まって祈りをするという情報は、一人の協力者により中国の警察に暴露され、その情報に基づいて完全武装した中国軍特殊部隊が民家に突入、子供を含め中にいた住民を銃撃、全員がその場で射殺された。

ウイグル人の警察官三名も、突入について漏らしたとの疑いで、その場で処刑された。同胞たちよ、今私

が伝えようと書き記していることは、すべて真実だ。文章を書くのがうまくはないので、できるかぎり、真実のみを伝えようと思う。今私たちが歴史上最悪の虐殺の中で生きているということを。こうして書いているときですら、周りには先の尖った自動小銃で武装した中国軍がいる。神よ、どうか私たちに安全な場所を与えたまえ！ 同胞たちよ、どうかこの言葉を世界に届けてくれ。色々な国の言語にこれを翻訳してくれることを願う。私たちは、ここで今起きていることを国際社会に知ってもらい、自分自身の目で確かめるために、ぜひともここへ人を派遣してもらいたいのだ。

同胞たちよ、私たちのために祈り、この窮状が打開するよう願ってくれ。私が情報を得たところによると、ここは激しく爆撃を受け、その後に武装した軍隊が侵入し、生存者を根絶やしにしたという。負傷者の中には首を絞められ、頭を切断された者もいた。その中は生まれたばかりの乳飲み子や、年老いた女性、授乳中の母親までいた。この辺りの三郷で生き残ったのは、中国に協力した者だけだ。中国はさらに一七名（軍人）から成るグループを送り込み、生存者がいないかどうかを確認し、そしてまだ一三名の生存者がいることを郷の書記に報告した。その生存者たちはみな軍が射殺した。被害者は老婦人一名、妊娠中の女性一名、あとは子供だった。Nash Kuruk、Ishinko そして Dugbag と Kush Eriq の周辺でも、まだ虐殺が続いているとの報告もある。出入りが止められている（当局により遮断されている）以下の地域――ヤルカンド地域のマルキト県、DugBag、イリシュクー、Hengdi、Kush Yezik――こういった地域でも、いまだ犯罪行為が進行中である。さらに、ヤルカンド川の内部地域 Hayat Iken、Gulbaz、Tupustaq、Udanlik、Chiraq、Tagarchi、Yakachi、Misha、Ishankol 内においても、拘禁が今も行われていることが分かっている。

誰もが挨拶さえ恐れている。なぜなら二、三人の人間が集まるだけでも逮捕される可能性があるからだ。現在までに、どれだけの人間が拘留され、虐殺されたか、正確な人数は分からない。

なにしろ軍隊以外の者は隣近所へ行くことすらできないのだ。七歳の女の子を殺された家族を知っているが、よそに住む叔父たちは弔問にすら行けなかった。身元の分からない犠牲者の遺体は、以前、細礫（建材）を運ぶのに使っていた建設工事用トラックで運ばれていると聞いたこともある。

友人たちよ、イリシュクー郷はヤルカンド地域で最も人口の多いところだ。通常ならヤルカンド地域の郷には、少なくとも五〇〇から六〇〇世帯が居住している。イリシュクーの犠牲者数については約三〇〇〇から五〇〇〇人と見積もっているが、実際の数はそれよりももっと多い可能性もある。現時点で、この地域の情報は厳しい監視下にある。射殺された三名のウイグル人警察官も、その情報を外に漏らした疑いで殺されたのだ。

Photo by Gusjer, Flickr.com

ウイグル人とウイグル文化

一、ウイグル人

ウイグル人は、起源的にトルコ系民族であり、中央アジアのタリム盆地周囲や天山北方の地域で生活している。二〇一四年現在ウイグル人の東トルキスタン所謂中国の新疆ウイグル自治区における人口は、中国政府関係の統計によると一〇〇六九三四六人で、この地域の四五％を占めている。

ウイグル人は四世紀からモンゴル高原や中央アジアでの遊牧民族として、ユーラシア大陸内陸部を拠点として遊牧国家を形成し、征服先にオアシス国家なども形成した。その活動領域は北アジアのモンゴル高原から中央アジア、イラン高原、アゼルバイジャン、カフカス、ギプチャク草原、アナトリアを経て東ヨーロッパのバルカン半島にまで及んだ。

七四四年、同じトルコ系のテュルク帝国より独立し、ウイグル（九姓回鶻）帝国を建国、ウイグルという名前で歴史の舞台に登場した。七四五年から、モンゴルからトルキスタンにかけて広大な地域を支配した。八四〇年、可汗位〈帝位〉継承問題による王族の内紛、北方より進入したモンゴル系のキルギス族によって崩壊させられ、帝国の崩壊により四散。中国から見ると西域に移動した。「西域」は中国の西方の諸国を中国人が読んだ汎称、広義にはペルシア・中央アジア・シリア・エジプト方面まで含む。狭義にはタリム盆地、東トルキスタン（現在の新疆ウイグル自治区）を「西域」と言う。

一部の回鶻人は今のトルファン一帯で高昌回鶻王国を興し、その一部はカシュガル一帯でカラハン王国を打ち立てた。移動してきたウイグル族の祖先はここで生活していた他の古代民族と融合して最終的に現代ウイグル族が形成されたとされる。中国の元、明時代にはウイグル族を「畏兀児」と呼ぶようになるが、清王朝がこの地域に侵略してからは、ウイグル人が信仰していたイスラーム教が「回教」と称されたため、ウイグル人を「回回」と呼ぶようになった。そして、回族と区別するために、ウイグル人の宗教界上層の人々及び年上の人たちが頭に幅が広いガーゼ「サッラ」を巻きつけたので「纏回」と呼んだ。一九三〇年代に、ウイグルの人たちの中から「纏回」という名前はけなす意味を含んでいるという意見が出たために廃止された。一九三五年に〈新疆〉地方政府が各民族代表大会を召集し、「維吾爾」という漢字音訳の名前を使用することが定められた。

二、現代ウイグル語について

ウイグル語はアルタイ語族の東トルコ語系に属する。ウイグル語はウイグル文字の発展段階によって、古代ウイグル語時代（オルホン時代ウイグル語）、中世期ウイグル語時代、近代ウイグル語時代（チャハタイ語時代）現代ウイグル語時代に分けられる。古代ウイグル語は四世紀から七世紀までオルホン川やエニセイ川領域で発見された突厥碑文に書かれたオルホン文字文献であり、オルホン時代ウイグル語とも呼ばれる。

中世期ウイグル語は、八世紀から一〇世紀まで用いられたウイグル語を指す。この時期にトルファン周辺で仏教を信仰する高昌回鶻王国とカシュガル周辺でイスラーム教を信仰するカラハン王国が成立した。高昌王国時代には仏教の影響で、漢語で書かれた多くの文献がウイグル語に訳された。カラハン王国時代にはイスラーム教の影響でアラビア語やペルシア語からウイグル語に大量の語彙が流入し、古代ウイグル文字である回鶻文字が放棄されてアラビア文字を使うことになった。

近代ウイグル語（チャハタイ語）は、一三世紀半ばから一五世紀末までに用いられたウイグル語を指す。一三世紀半ばから一五世紀半ばまではチャハタイ語の形成段階であった。このとき高昌文語とカラハン文語が混用され、更にそれらにアラビア語やペルシア語から多くの語彙が入ってきた。一五世紀半ばから一七世紀初期まで、チャハタイ語が安定して使われ、最高に発展した時期となった。この時期に哲学、文学、歴

史、医学に関する多数の文献が書かれ、アラビア語やペルシア語の優れた作品がチャハタイ語に翻訳された。一七世紀の初めから一九世紀の終わりまでの間に、チャハタイ語は次第に現代ウイグル語へと変化し始めた。

現代ウイグル語は、オルホン時代のウイグル語、中世期時代のウイグル語、チャハタイ語の優れた伝統を維持し、音声、語彙や文法構成が再構築されたウイグル語である。現代使われているウイグル族の共通語の形になったのは一九世紀の三〇年代以降である。一九三五年東トルキスタンで出版事業が始まってから現代ウイグル語は急速に発展し、短大生、大学生に教えるために、ウイグル語の特徴に基づき、三二の音声、またその音声を記録するための三二個の文字や文字の書き方や発音の仕方を定めた『現代ウイグル語』という教科書が出版されて以来、現代ウイグル語を系統的に学ぶことができるようになった。

アラビア文字を基礎として形成されたウイグル文字に対して一九三〇年と一九五一年の二度に亘って文字改革が行われ、現用のウイグル文字となった。一九四九年から中国共産党により侵略され、一九五六年に漢字をピンイン化する動きに伴い、〈新疆ウイグル自治区〉でもラテン文字を基礎とする新しいウイグル文字「新文字」が作られ、さらに一九六五年に「新文字」とアラビア文字を基礎したウイグル文字「老文字」を同時に使い始めるようになった。新文字は二六個のラテン文字に六個の非ラテン文字を加えた全部で三二の文字がある新ウイグル文字である。一九七六年〈新疆ウイグル自治区政府〉が「ウイグル老文字の使用を停止する」という決定を出したが、「新文字」を読めない人が多く、教育分野、印刷設備、管理部門でも全面的に実施することができずに、反対の声が起こり、一九七九年一一月に「新・老ウイグル文字を同時に使用する」と言う声明を採択したが、今度は、二種の文字を使うことにより矛盾が発生した。そこで、一九八二年に「新文字」の使用が停止され、「老文字」を復活させ、全面的に使用することになった。

三、イスラーム教の受容

ウイグル人は一〇世紀まで仏教、マニ教、ゾロアスター教、景教（ネストリウス派のキリスト教）とシャーマニズムなどを信仰していた。七世紀にアラビア半島で誕生したイスラーム教は一〇世紀からウイグル地域に伝わり、一五世に全域がイスラーム化したのである。

以下では一〇世紀から一五世紀までウイグル人がイスラーム教を受容した経緯を二つに分けて考えて行く。一つ目はカラハン王国時代、二つ目はチャガタイ王朝時代のイスラーム教の受容である。

八四〇年にモンゴル草原ではウイグル帝国が崩壊し、ウイグル人は三つのルートで西へ移動した。一部のウイグル人はベシュバリクに移動し、八六六年高昌回鶻王国を建てた。他の一部は、チュー河畔のバラサグンを中心としたカラハン王朝を建てた。後に宗教信仰の違いによって、クチャが高昌回鶻王国とカラハン王朝の国境になったとされる。まず、最初のカラハン王国時代、サトゥク・ブグラ・ハン（カラハン王国二代目の王）はサーマーン朝（八七五～九九九）の影響でイスラームに改宗し、カラハン王国で初めてイスラーム教を信仰した人となった。サトゥク・ブグラ・ハンは仏教を信仰する叔父から政権を奪い、カシュガルの支配権を握ると、イスラーム教を合法宗教と宣言し、人々にイスラーム教に改宗するよう呼び掛けた。当時、カラハン国で主流だった宗教は仏教で、またマニ教、景教、シャーマニズムを信仰する者も多かった。そこでサトゥク・ブグラ・ハンは旧来の宗教信仰を捨ててイスラーム教に改宗させるために強制的な措置をとり、アラビア国家をモデルにしたイスラーム法統治体制の宗教法廷（Qazihana）を設置した。こうしてカシュガルの支配者となったサトゥク・ブグラ・ハンは、カラハン王国の人々の半分をイスラーム教へ改宗させたので、カラハン王国はウイグル人のイスラーム化の先駆けとなった。

ムサ・アルスラン・ハンはサトゥク・ブグラ・ハンの息子である。彼はハン（君主）の位を継承してから九六〇年にイスラーム教を国教と定めた。つまりカラハン王国時代のイスラーム教の流入に際し、サトゥク・ブグラ・ハンやムサ・アルスラン・ハンがイスラーム教を受け入れ、保護したりしたのは、政治的な必要性があったためではないかと考えられている。すなわち、サトゥク・ブグラ・ハンがイスラーム教を受け入れたことは、カラハン王国はサーマーン朝からの「聖戦」の攻撃を防ぐためだと考えられている。カラハン王国で信仰された仏教・マニ教・シャーマニズム等をイスラーム教と比較すると、イスラーム教の信者に対する結集力が強く、特にジハード精神は権力者にとって自身の支配を維持し、勢力を拡大するために有利であったと思われている。

次に東チャガタイ・ハン国時代においてイスラーム

教が大量に流入して定着したとされる。モンゴル人は一二二五年に、イランとイラクにイル・ハン国、中央アジアにチャガタイ・ハン王国、黒海、カスピ海、アラル海北方の大草原とロシアにキプチャク・ハン国を建てた。この中のチャガタイ・ハン国は、一三世紀にチンギス・ハンの次男チャガタイが、四〇〇〇人のモンゴル人とともに中央アジアに移住して成立した国家である。一三一八年頃チャガタイ・ハン国は内部争いにより、サマルカンドを中心とした西部ハン国と東部チャガタイ・ハン国に分かれた。一三四六年、トゥグルク・ティムルが東チャガタイ王国の王になると、彼はイスラーム教へ改宗し、東チャガタイ・ハン国の王族の中で初めてイスラーム教に信仰した人になった。彼は天山北部でイスラーム教への信仰を強制し、その結果一六万人のモンゴル人がイスラーム教に改宗することになった。ゆえに天山南北に生活をしているモンゴル人は、定住化、またイスラーム化し、ウイグル人に融合したという。トゥグルク・ティムルは、モンゴル人に対して強制的な方法を用いてイスラーム教への改宗を実行し、ムハマット・ヘイデル・コラガニの『タリヒーレシディア』（漢語訳　第一部二三三ページ）によれば、サッラをしていないモンゴル人の頭部に釘を刺したと書かれている。チャハタイ・ハン国時代では、チンギス・ハンの子孫たちがカラハン王国のブグラ・ハン王族が達成できなかったことを達成したのであり、イスラーム教が布教された東トルキスタンの南方に次いで、仏教が盛んであった東部と北部のイスラーム化も完成し、東トルキスタン全地域で二回目のイスラーム教の定着が達成されたのである。

イスラーム教は一〇世紀にウイグル人が信仰するようになった後、ウイグル人居住地区で支配的な地位を占め、他の宗教を排除してウイグル族の中心的な宗教になった。これ以降、イスラーム教はウイグル族の経済、政治、文化、生活習俗などのすべての領域にわたって影響を深め、ウイグル族の伝統文化の中にイスラーム教の要素が頻繁に現れるようになり、現在に至っている。

四、言語文字と日常生活用語

カラハン王朝時代では、公用語としてウイグル語と古代ウイグル文字（回鶻文字）が使われていたが、イスラーム教を信仰するようになってから、古代ウイグル文字はアラビア文字に取って代わっていった。『文学と歴史問題』という雑誌で発表されたA．ブヨプコウの「中央アジアの人々の文化史においてウイグル人が果たした役割」という論文には、カシュガル地域でのウイグル人が九世紀からアラビア文字を使っていたと記載されている。

この時代に首都カシュガルで宮廷人として過ごしたバラサグン生まれのユースフ・ハーッス・ハージブ（Yusup KhasHajip）が一年半の歳月をかけて君主のあるべき姿、主君の守るべき道徳的心得を説いた『クタドゥグ・ビリグ（幸福になるために必要な知識）』を書いて、スレイマン君主に献呈した。この書物は一種の教訓・道徳書であるが、アラビア文字を用いたカラハン朝トルコ語の韻文で書かれ、現存するトルコ・イスラム文学最古の作品であるとされている。

そして、一〇七四年に完成した『ディワン・ルガート・テュルク Divan LughatTurk（トルコ語辞典）』の著者マフムード・カシュガーリー（MahmudKashgari）も、バクダッドで教育を受け、アラビア語がよくできた人で、この辞書もバグダッドで書かれたと思われるが、史上初のトルコ語・アラビア語辞典であるとされる。このことから考えると、イスラーム教が入ってきたことの他に、ウイグル人の文学作品が回鶻文字（古代ウイグル文字）とアラビア文字で書かれたことや、作品の内容としてイスラーム思想が強調されたこと、そして、世界初のトルコ語アラビア語辞典が発明されたことなどから、当時のウイグル人の考え方や、価値観に多大な影響を与えた言語や文字に対して、イスラーム教の信仰を通じてアラビア語が大きな影響を与えていたことがわかる。

チャガタイ・ハン国時代に、現代ウイグル語の基礎となったチャガタイ語が形成され、ウイグル文字はアラビア文字を基礎としたチャガタイ文字を使うようになった。現在でもこのチャガタイ文字を基礎とした現代ウイグル文字が使用されている。ウイグル人がイスラームへ改宗してから、日常生活の中で使う言葉としてアラビア語、ペルシア語から入ってきた言葉が現在でも多く存在している。例えば、dushmen（敵）、dunya（世界）、din（宗教）、dost（友達）などが挙げられる。

イリハム・トフテイ氏は無罪だ！

国家分裂罪で起訴されたウイグル族学者初公判始まる

編集部

産経新聞 九月一八日記事によれば、中国のウイグル族の生活や政治状況などをインターネット上で積極的に発信し、中国当局から国家分裂罪で起訴されたウイグル族学者、イリハム・トフテイ氏の初公判が一七日、新疆ウイグル自治区ウルムチ市の中級人民法院（地裁）で開かれました。複数の関係者が明らかにした。

検察側は、イリハム氏について「インターネットで新疆の独立をよびかけ、国家の分裂活動に従事していた」と断罪し、イリハム氏側は「国家分裂を支持したことはなく、新疆の安定を望んでいるだけだ」と反論し、無罪を主張した模様です。

イリハム・トフテイ氏はこれまで、過激な闘争を呼びかけたことも、独立を公的に求めたこともありません。むしろ氏の主張は、早急な独立に反対し、ウイグル人の人権を尊重した上で漢民族との和解を求める穏健なものです。それなのにイリハム氏は今年一月一五日に北京で警察に身柄を拘束され、六月二六日まで弁護士との接見を認められず、何とトフテイ氏本人は、一〇日間は食事も与えられず、二〇日間にわたり手足を鎖につながれていたと弁護士に話しています。

その是非は別にして、スコットランドの独立が議論される中、このような穏健な意見までもが弾圧される中国は、世界の中でもまさに人権後進国というべきものです。イリハム・トフテイ氏は中国の国内法でも認めているはずの、ウイグル人の当然の自治権を求める穏健な言論活動を行ったにすぎません。イリハム・トフテイ氏は無実だ、という声を、皆様が彼が自由になるまで様々な形で挙げてくださることをぜひともお願いいたします。

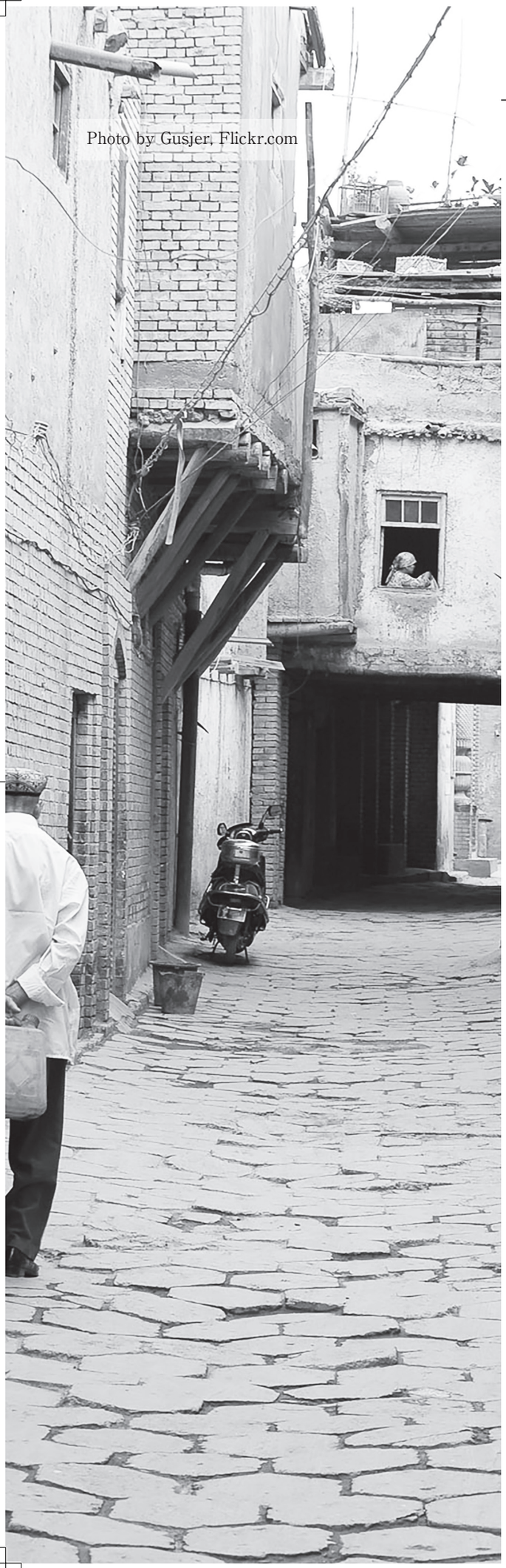


Photo by Gusjer, Flickr.com

2014年8月15日靖国神社前
チラシ配布にご協力ありがとうございました。

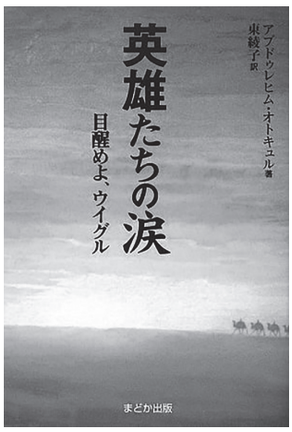
今年も八月一五日の終戦記念日に靖国神社前でチラシ配布を実施しました。

今年はウイグルの人権問題や核実験被害のパンフレットと、ヤルカンド事件の資料「東トルキスタンのヤルカンドでおきた中国当局による虐殺について」を含む約五〇〇〇セットのチラシを配布。

ヤルカンド事件と二〇〇九年のウルムチ事件についてのパネルでウイグルの現状をアピールしました。皆様からの多くの応援と励ましに感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

また、モンゴル自由連盟党の方々も南モンゴルの弾圧を伝える街宣活動を行いました。暖かいお言葉をかけてくださった皆様方に心から感謝いたします。

編集部より、おすすめのウイグル書籍紹介



英雄たちの涙―目醒めよ、ウイグル

アブドゥレヒム・オトキュル（著），東 綾子（翻訳）　まどか出版（2009）

本書は1986年ウルムチで出版された『Iz(足跡)』を底本とした、ウイグル文学の初めての邦訳である。著者のアブドゥレヒム・オトキュル氏はウイグル文学史に燦然と輝く人物で、『Iz(足跡)』はウイグル人720万人のなか、5万4000部が発行される。しかし歴史の真実を凝視する彼の小説は中国当局により発禁処分に遭ってしまう。中国最後の帝政が滅ぶ20世紀初頭、ウイグル人のティムル・カリフは、同じウイグル人の王家による圧政に苦しむ民衆を救うべく、同志とともに立ち上がる。王家は鎮圧に動くが、そこには中国人たちの思惑もうずまいていた。本書は「中国の火薬庫・新疆ウイグル」が独立を求め続ける、その原点を描いた壮大な歴史小説である。

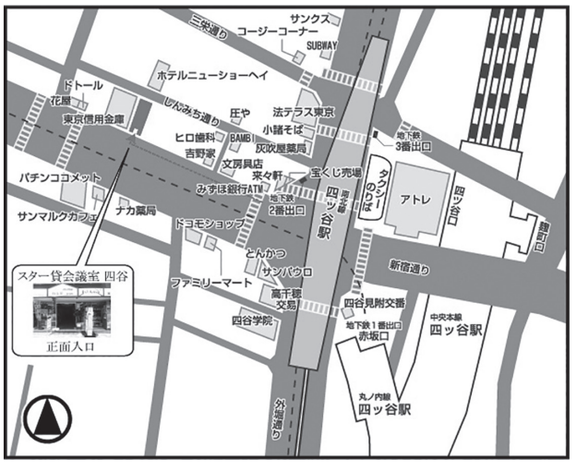
日本ウイグル協会講演会「東南アジアの難民と人権問題 現場からの報告を聴く」のお知らせ

私たち日本ウイグル協会は、今回来日した、タイ、ビルマなどで人権問題や地元の産業育成に現場で尽力しておられるお二人を迎えて、東南アジアの人権問題、そして難民問題について学ぶ講演会を開催いたします。人権問題に関心の深い皆様方のご参加をなにとぞよろしくお願いいたします。

講演者

チェリーダ・タジェロエンスック先生

タイ・ピープルズエンパワーメント代表。タイで人権問題や難民問題に広範囲に取り組み、官民いずれからも信頼されている。



井本勝幸 先生

ビルマ民族統一連邦評議会コンサルタント。著書「ビルマのゼロ・ファイター ミャンマー和平実現に駆ける一日本人の挑戦」（集広舎）ビルマで少数民族の救援と農業指導に長年取り組む。

日　時：一〇月二〇日（月）午後六時半開場
　　七時開会

場　所：ＴＫＰスター会議室四谷
　　東京都新宿区四谷一-八-六 ホリナカビル

参加費：一〇〇〇円

【10月18日福岡】

「アジアに自由と独立を！　福岡フォーラム」

福岡にアジア各国からリーダー達が集結します！

チベット、東トルキスタン（ウイグル）、南モンゴル、ミャンマー、タイ……。福岡という地方都市ではかつてない規模の一大イベントの開催です。

いまアジアで何が起きているのか!?

これから日本は何を為すべきなのか!?

私たちに出来ることは何なのか!?

かつて、この福岡の地はアジア独立運動の一大拠点都市でした。欧米の植民地となってしまっているアジアを独立させ解放するために、多くのアジアの志士たちがこの福岡の地に集まり、そして福岡の志士たちが惜しみなく支援を行いました。辛亥革命の孫文などが有名ですが、実際にはアジア全地域から集まってきています。

いまアジアにはまた新たな覇権主義・拡張主義の下で苦しんでいる人々が大勢います。テレビや新聞にはほんの一部しか取り上げられていません。というよりも事実上何も報じられていないに等しい状況とも言えます。この10月18日（土）は画期的な日となります。アジアのリーダー達の声をじかに聞き、共に考えたいと思います。

講師

ペマ・ギャルポ（チベット出身・桐蔭横浜大学教授）

イリハム・マハムティ（東トルキスタン出身・日本ウイグル協会代表）

オルホノド・ダイチン（南モンゴル出身・モンゴル自由連盟党党首）

アシン・ヴァヤマ（ミャンマー出身・四方僧伽ビルマ代表）

チェリーダ・タジェロエンスック（タイ出身・ピープルズエンパワーメント代表）

井本勝幸（福岡出身・ビルマ民族統一連邦評議会コンサルタント）

浦辺登（福岡出身・作家）

日　時：十月一八日（土）開場一二時 開会一三時

会　場：都久志会館・大ホール
　　福岡県福岡市中央区天神四丁目八―一〇

参加費：一〇〇〇円

連絡先：夢・大アジア
　　電話 092―263―8085

共　催　一般社団法人 アジア自由民主連帯協議会
　　特定非営利活動法人 夢・大アジア

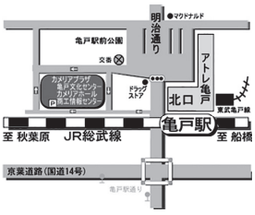
ウイグル十二ムカーム

シルクロードにこだまする愛の歌

日　時　11月27日（木）
午後６時半開場　７時開会

会　場　亀戸文化センター（カメリアホール）
ＪＲ総武線「亀戸」駅北口より徒歩２分
東武亀戸線「亀戸」駅より徒歩２分

参加費　無料　（※参加の事前申込の必要はありません）



出版記念講演会

『ウイグル十二ムカーム』出版を記念し、翻訳・解説者自ら本書の解説とウイグルへの思いを語ります。

講演テーマ

「ウイグルのムカームを
21世紀に伝えた人たち」

シルクロードの響き。

ムカームは厳しい歴史の荒波の中でも、消え去ることはなかった。
それは、ムカームを心から愛した「アーシク」たちと、ムカーム存続の役目を担うことになった者たちの、連携プレーの結果なのか。

REIKO HAGITA
萩田麗子（はぎた・れいこ）

熊本県生れ。1983年、東京外国語大学大学院修士課程アジア第二言語科修了。
1988−1989年、
カラチ大学（パキスタン）留学。
1994−1995年、
新疆大学（中国）留学。
専攻：古典詩研究。

ウイグル十二ムカーム
シルクロードにこだまする愛の歌

発　行　集広舎
ISBN　978-4-904213-22-3
定価：本体 2,000 円 ＋ 税

伝統楽器のオーケストラによる組曲(2005年ユネスコ無形文化遺産登録)。
すべて演奏すると24時間かかると言われている壮大な楽曲は、ウイグル民衆の中で誕生、１６世紀にシルクロードで栄えた国の宮廷で洗練され、音楽と詩と舞踊の総合芸術となった。日本人がどこか憧れてやまないシルクロードに500年こだました愛の詩(うた)、初の完全翻訳。

十二ムカームの歌詞は44人の詩人の詩から採られている。詩人たちの生きた時代は15世紀初めから19世紀までの長きにわたっており、職業詩人のほか、王侯貴族、政府高官、役人、学者、托鉢僧、楽師、教師と、その社会的地位はさまざまである。天寿を全うした者もいれば権力闘争に巻き込まれて命を落とした者もいる。さらには、社会改革を詩で訴えて処刑された者もいる。当時の「詩」というものが、社交の道具、詠む者や聴く者の心に慰めを与えるものとしての役割のほかに、更に深く人々の人生に関わりを持っていたことがうかがえる。

（解説より）

日本ウイグル協会より緊急のお願い

ウイグル難民へのご支援をお願いします

日本ウイグル協会会員の皆様、そして、ウイグル問題に関心を持ってくださるすべての方々にお願いがございます。

今年に入ってから、当日本ウイグル協会は、これまでの日本国内の抗議活動や学習会だけではなく、中国政府の弾圧と民族絶滅政策により、第三国に出国せざるを得なくなったウイグル難民の救援を主要な活動として行っています。

この春から夏にかけて、当会代表のイリハム・マハムテイは、様々な善意の方々の匿名の寄付や、現地の人権活動家のご協力を得て、彼らウイグル難民と何度も対面してきました。しかし、過去にウイグル難民が何度も第三国で逮捕されて中国に強制送還された事例があり、彼らの生命の安全のためにこの情報を殆ど公開できないのが現状です。

ウイグル難民の中にもさまざまな考えの人がいます。しかし、根本的な問題は、中国では最早ウイグル人がウイグル人として生きていくことができないこと、自分が、家族が、子供たちが、自由に自分の民族の誇りと信仰を抱いて生きて行くために、彼らは様々な手段で国境を越えたということです。

彼らは第三国に於いては不法越境者として逮捕され収容されざるを得ません。そして彼らの生活費は、ある国では日本円にして一日当たり15円ほどしか与えられず、特に、罪もない子供達や妊婦が、不慣れな環境の中で健康を害しているものもいるのが現状なのです。

充分情報をお伝えできないのが心苦しいのですが、この難民たちの現状を何とか改善し、また彼らが希望する国に向かうことができるように、私たちは日本でできるだけの支援体制を取ろうと考えております。

景気もいまだ十分な回復の無い中、ご無礼なお願いとは重々承知しておりますが、なにとぞ、左記口座にウイグル難民へのご支援として、皆様の浄財をお願いいたします。

ウイグル難民支援口座　ウイグル難民救援基金（ウイグルナンミンキュウエンキキン）
ゆうちょ銀行　記号10040　番号37012681
他金融機関からの振込の場合は　店名・店番〇〇八（ゼロゼロハチ）　口座3701268

日本ウイグル協会　代表　イリハム・マハムテイ

この口座への入金はウイグル難民への支援にのみ限定して使わせていただきます。

日本ウイグル協会 会費納入のお願い

しばらく事務処理が滞り、会費納入のお願いが遅れていましたことをお詫びいたします。

事務所維持、活動経費、またこのニュース印刷費を含む様々な経費は皆様方会員の会費並びにご寄附により成り立っています。当協会の活動は、現地で苦しむウイグル人を助けるためにはまだまだ十分ではありませんが、この日本におけるウイグル支援運動を維持するために皆様方の会費納入、また浄罪のご寄附をなにとぞよろしくお願いいたします。

日本ウイグル協会振込口座

ゆうちょ銀行から振込みの場合
ゆうちょ銀行 記号 10230　番号 21164361
トクテイヒエイリカツドウホウジン ニホンウイグルキョウカイ

他行から振込みの場合
ゆうちょ銀行 店番（店名）028　番号 2116436
トクテイヒエイリカツドウホウジン ニホンウイグルキョウカイ
※ゆうちょ銀行の店番は「ゼロニハチ」と入力ください。

編集後記

八月三一日、日本ウイグル協会の総会が開催されました。今回の総会では懸案だった平成二十四年度決算が賛成多数で承認されると共に、今後の活動について、難民救援の必要性を中心にイリハム会長から報告が行われました。他の議題については、年内に再び討議する場を設けることを決定しました。

ウイグルでは様々な悲惨な報道が続いていますが、十月二五日、本号でもお知らせしましたように、ウイグルの偉大な伝統文化であり、シルクロード文化の一つの総合芸術とも言うべき十二ムカームが日本初の全訳で出版されます。ぜひ、書店などでお求めになっていただき、ウイグルの文化が漢民族のそれとは違った独自の発展をしてきたことを知っていただければ幸いです

（編集部）

特定非営利活動法人
日本ウイグル協会
Japan Uyghur Association

日本ウイグル協会

公式サイト
http://uyghur-j.org/
メールアドレス
info@uyghur-j.org